

情報網と交通網の充実化を実現するための研究組織の創設について (継続)

イベント、店舗、駐車場、災害など桐生市内の様々な情報を横断的に一元化するシステムと、地域内を全循環できる移動網の整備は、将来の都市像を構築するうえでも不可欠であり、官民連携による研究組織（戦略室）の創設を要望いたします。

長い歴史に裏打ちされたものづくりの文化や、桐生祇園、桐生八木節まつりに代表される活発な地域行事など、桐生市は他地域に誇る独自の魅力を持ち、それらを通じて関係人口の獲得から近年では移住者による起業機会も増加しています。一方で各々の情報は散発的でリアルタイムに発信されず、地域内でのみ共有されることが多いため、市外・県外の方々に対して十分な認知がなされていない事があるかと思われます。さらに、地域内の移動網の整備が不十分なため、せっかくの来桐者が市内を循環できず滞在時間も限られるなど、商機を逸するケースも見受けられます。

桐生独自の情報の共有化と交通網の整備は、今後、市民及び来桐者にとって災害時における避難誘導の円滑化、買い物や暮らしの利便性の向上に向けて喫緊の課題であります。

桐生域内の事業者の更なる成長のため、Maas やD Xを駆使した複合的で骨太の戦略が期待されております。よって研究組織（戦略室）の早期立ち上げについて、何卒ご検討いただけますようお願いいたします。

桐生市からの回答

（官民イベント等の情報集約について）

官民のイベント等の情報集約については、当該情報に対するニーズの把握や、ウェブかアプリかといった媒体の選定、サイトの運営方法など提案の具現化には解消すべき課題があるものと考え、今後、官民協働の取り組みとして、検討・研究する余地があるものと考えます。

〔回答担当〕 共創企画部魅力発信課魅力発信担当

（情報の共有化について）

ご指摘いただいたとおり、情報を一元化することにより、情報の一貫性や即時性の向上が図れます。また、SNSを効果的に活用することで、利用者間でのコミュニケーションの活性化も期待することができます。

市民や来桐者にとっては、情報の一元化により様々な情報を容易に把握でき、利便性の向上が図られることで、本市のイメージ向上にも繋がっていくものと考えられます。

〔回答担当〕 総務部D X推進室情報システム担当

（交通網の整備と研究組織創設について）

地域公共交通の維持・充実、交通分野の課題解決にとどまらず、まちづくり、観光振興、さらには健康、福祉、教育、環境等の様々な分野で大きな効果をもたらすことから、それぞれの分野に係る多様な方々との協議が必要となります。

そのような中、本市は昨年 12 月に策定した、交通施策の今後あるべき姿を描く「桐生市交通ビジョン」を基本構想とし、有効適切な交通施策の実現に向けた取り組みの目的や内容などをより具体的に提示する「桐生市地域公共交通計画」を、今年 6 月に策定・公表しました。

本計画の策定を進めるにあたり、昨年 4 月に「桐生市地域公共交通活性化協議会」（法定協議会）を新たに設置し、交通事業者、各種団体や地域の代表、関係行政機関など様々な方と協議を行っており、今後は計画に位置付けた事業に関する協議を行っていくところです。

また、本協議会では専門的な調査、検討を行うため、分科会を置くことを可能としております。本計画における重要施策には「移動の D X 推進」も位置付けておりますので、必要に応じて分科会の設置について検討してまいりたいと考えております。

〔回答担当〕 共創企画部交通ビジョン推進室交通ビジョン推進担当